ホンダ

スノーラ

HS35

取扱説明書

お買いあげありがとう
ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいたホンダ販売店または下記の**<ご相談窓口>**にお気軽にお申しつけください。

なおホンダサービスの各地区センターでもお受けいたしております。

<ご相談窓口>

名称	電話番号	郵便番号	所在地
株式会社ホンダサービス 北海道業務室お客様相談窓口	011(261)2073	060	北海道札幌市中央区北一条西7－1 <本田技研工業㈱北海道支店内>
株式会社ホンダサービス 東北業務室お客様相談窓口	0222(24)6002	980	宮城県仙台市土樋1－11－2 <本田技研工業㈱仙台支店内>
株式会社ホンダサービス 北関東業務室お客様相談窓口	0272(61)0335	379-21	群馬県前橋市上長磯町 314 <㈱ホンダサービス前橋センター内>
株式会社ホンダサービス 南関東業務室お客様相談窓口	03(486)6271	150	東京都渋谷区神宮前6－27－8 <本田技研工業㈱東京支店内>
株式会社ホンダサービス 中部業務室お客様相談窓口	052(251)7651	460	愛知県名古屋市中区千代田1－7－2 <本田技研工業㈱名古屋支店内>
株式会社ホンダサービス 近畿業務室お客様相談窓口	06(312)0151	530	大阪府大阪市北区南扇町7－31 <本田技研工業㈱大阪支店内>
株式会社ホンダサービス 中・四国業務室お客様相談窓口	0862(41)4446	700	岡山県岡山市西長瀬字中須加 221 <㈱ホンダサービス岡山センター内>
株式会社ホンダサービス 九州業務室お客様相談窓口	092(271)2020	812	福岡県福岡市博多区祇園町8－7 <本田技研工業㈱九州支店内>

・所在地，電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
・ホンダサービスの各地区センターの所在地は別紙の住所一覧をご覧ください。

ホンダ スノーラHS35は小型、軽量で取扱いに優れ、女性でも手軽にお取扱いいただける高性能なスノーラです。
安全、快適にお使いいただくためにご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。



なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう ……4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう ……8

エンジン スイッチ ツマミ……10

燃料コック ツマミ……10

チョーク ツマミ……11

投雪方向調節ハンドル……11

始動グリップ……12

オーガ クラッチ レバー……12

投雪距離調節グリップ……13

エンジンをかける前に点検しましょう ……14

ガソリンの点検……14

エンジン オイルの点検……15

エンジンのかけかた ……16

正しい除雪のしかた ……19

エンジンの止めかた ……22

定期手入れを行ないましょう ……23

日常点検……23

定期点検……24

やさしい点検・整備 ……25

携帯工具……25

エンジン オイルの交換……26

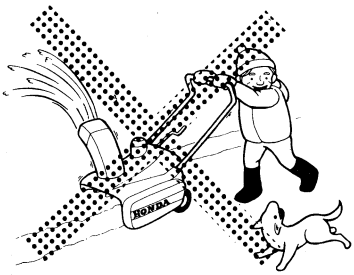
点火プラグの清掃・調整……27
オーガ クラッチ ワイヤの調整……28
オーガ ラバーの交換……29
スクレパの調整、交換……31
長期間使用しない時の手入れ……32
故障のときは……35
部品注文のしかた……37
主要諸元……38
保証書……40

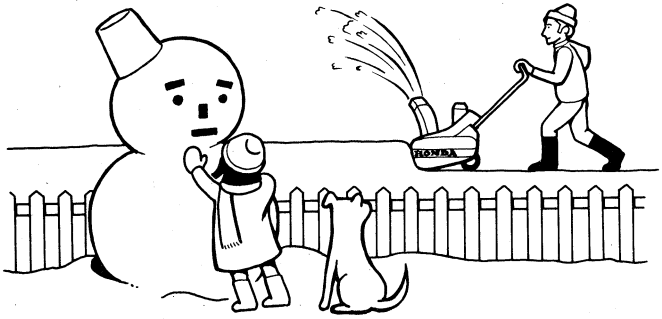
安全にお使いいただくために　これだけは

スノーラ　は正しく取扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な除雪作業のために次のことを必ずお守りください。

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱方法を十分御理解のうえ自分で操作してください。
- ＨＳ35の操作を子供にまかせることは大変危険です。
- ＨＳ35は簡単な操作でご使用できますが，まちがいなく取扱う為に各種操作になれてください。
- 除雪部は大変危険です、子供やペットが近づかないよう十分注意してください。
- 取扱説明書を読んでもよく理解できなかったり、粉失の際にはお買いあげ販売店か、最寄りのホンダサービスの各地区センターへご連絡ください。





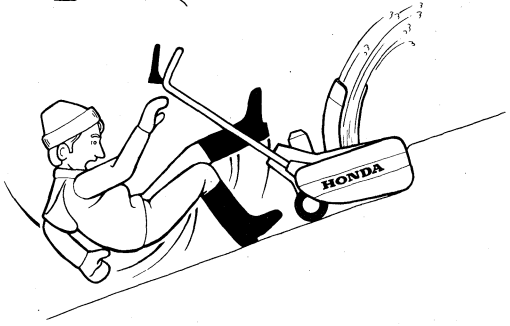


ぜ ひ 守 り ま し ょ う

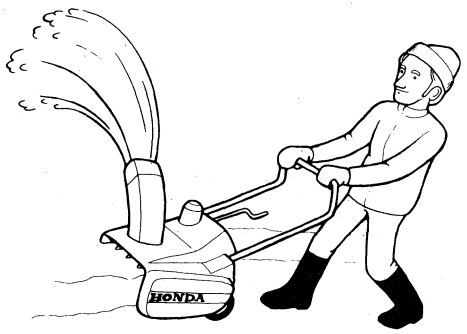
- 作業をする時は、防寒用の服装で身仕度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。
- 雪が降る前に除雪しようとする区域を事前に十分点検し、ドアマット、そり、棒、板、針金などの障害物を取り除いてください。
- 砂利道等の除雪は砂利の飛び出し等非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
- 視界の悪い場所や，夜間十分な照明のない場所での使用は危険ですからおやめください。
- 仕業点検を必ず行ない、不具合のある場合は使用前に修理を完全にしておき、不備な状態での使用はぜったいにおやめください。
- 屋根に積った雪や急斜面の除雪は行なわないでください。
- ガソリンは非常に引火性がありますのでその取扱いには十分注意してください。
- 雪のない場所を移動する場合はエンジンを停止しハンドルを押し下げて行なってください。







- 本機の操作は必ずハンドルを持ち後部に位置してください。また投雪をかぶらないように注意してください。
- 投雪方向を直接人等に向けたり、窓ガラスに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はその度行ない、適切に行なってください。
- 除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握りけっして走らないでください。
- 除雪中障害物に当った時はすぐにエンジンを止め，注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。
- 除雪部分や投雪口に顔や手足を近づけないでください。
- 除雪中に人やペットが急にあらわれた場合には速やかにオーガクラッチレバーをはなしてください。
- 斜面での方向転換には十分注意してください。
- 雪づまりの除去を行なう時は，エンジンスイッチを〝切〟にしてから行なってください。





- 屋内でエンジンをかけて点検する場合は換気に十分注意してください。換気の悪い場所は、有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。
- 長期保管前にはタンク内のガソリンを抜きとり火気の恐れのある所には保管しないでください。また抜いたガソリンは引火性があり爆発の危険があります。
- 整備をする時の作業手順はやさしい点検整備にしたがってください。
- 修理などで部品交換をする場合は必ず本田純正品をご使用ください。
- 駐車機構がありませんので坂道での駐車はしないでください。



各 部 の 名 称 と 取 り


投雪方向調節ハンドル
オーガクラッチレバー
燃料給油キャップ
投雪口
HONDA
ブロワ
オーガ
点火プラグ
スクレパ

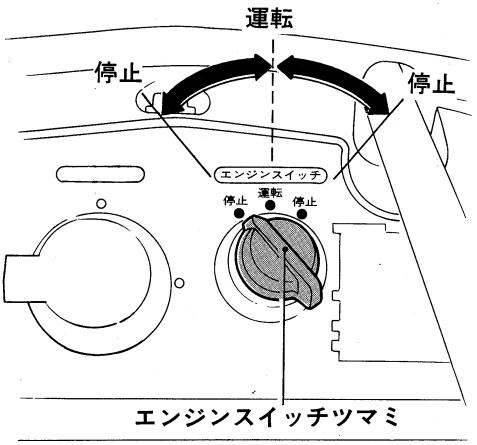
扱いをおぼえましょう



投雪距離調節グリップ
オーガクラッチワイヤ
調節部
スクレパラバー
始動グリップ
エンジンオイル注入排出口
マフラ排気口
チョークツマミ
エンジンスイッチツマミ
燃料コックツマミ

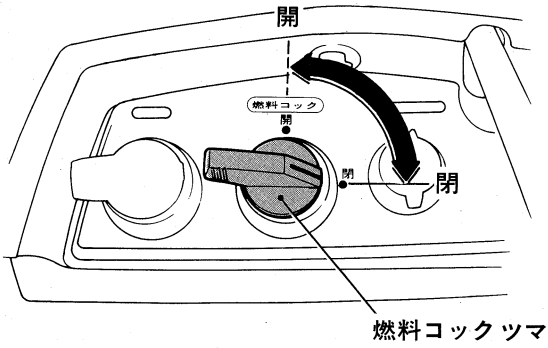
エンジン スイッチ ツマミ

エンジンの始動、停止をする時に操作します。



燃料コックツマミ

燃料タンクから気化器までの通路を開閉する時に操作します。操作は確実に〝開〟〝閉〟の位置に合わせてください。

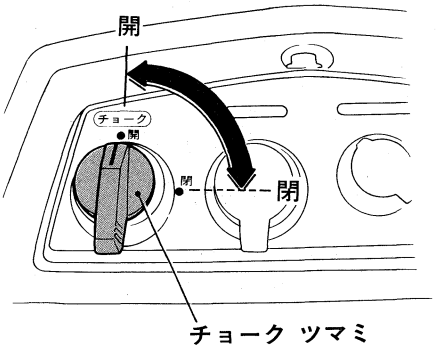


注意

• 運搬時、保管時及び点検整備時に本機を傾むける時はツマミを〝閉〟の位置に合わせてください。〝閉〟にしないと燃料がもれることがあります。

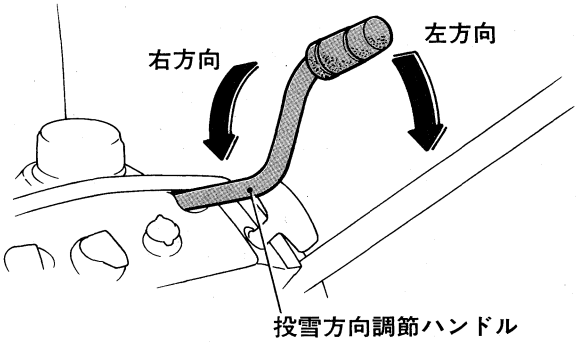
チョーク ツマミ

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



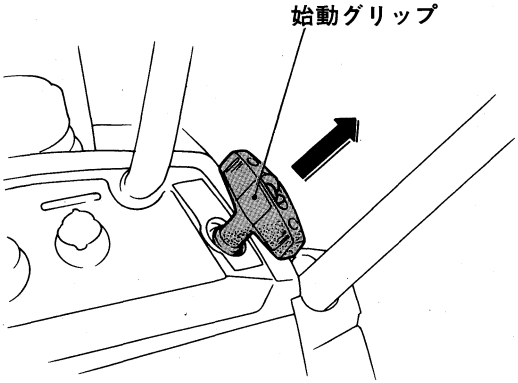
投雪方向調節ハンドル

投雪方向を変える時に操作します。



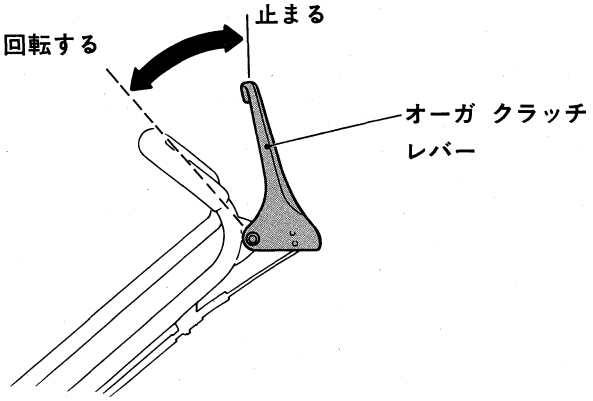
始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。



オーガ クラッチ レバー

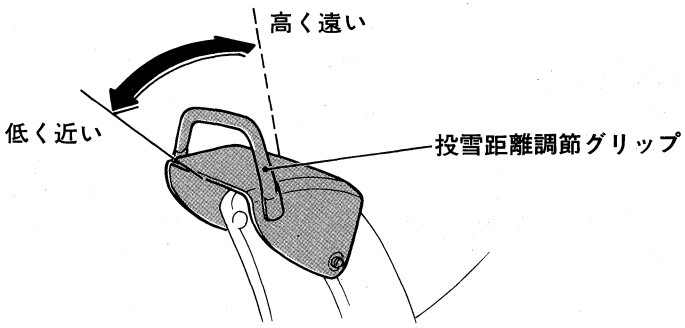
クラッチ レバーを握ると除雪部が回転し本機が自走します。レバーをはなせばとまります。



注意 • 雪のない所ではレバーを握らないでください。本機の飛出し等があります。

投雪距離調節グリップ

投雪距離を変える時に操作します。



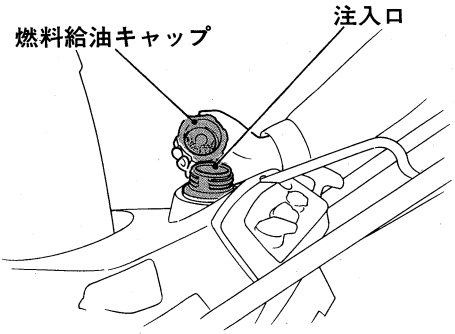
エンジンをかける

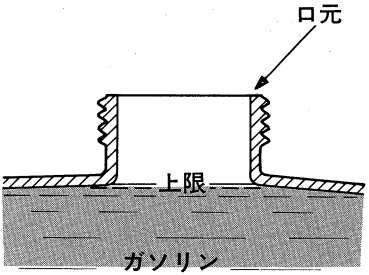
★点検は平担な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

ガソリンの点検

点　検

燃料給油キャップを外し、ガソリンがあるか点検します。少ない時には図の位置まで補給してください。





補　給

使用ガソリン：無鉛（レギュラ ガソリン）

タンク容量：1.3ℓ

- 給油キャップを外し、図の位置（上限）まで補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

注意

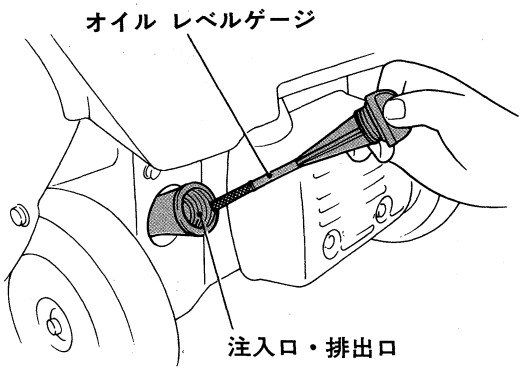
- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- 万一口元よりあふれた時は、こぼれたガソリンを布切れ等で速やかに拭きとってください。
- 降雪時ガソリンの補給はしないでください。
  燃料タンク内に雪等が入るとエンジン不調の原因になります。

前に点検しましょう

エンジン オイルの点検

点　検

オイルレベルゲージを外し、いったん布等でゲージ部をふいてからねじこまず差し込んで点検します。油面が下限に近い時には、上限までオイルを補給してください。

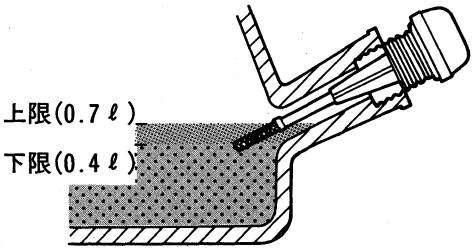


補　給

指定オイル：API 分類 SD 級以上の SAE 5 W－30エンジンオイル。

オイル容量：0.7 ℓ

- 給油キャップを外し、新しいオイルをレベルゲージの上限まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は26頁参照）

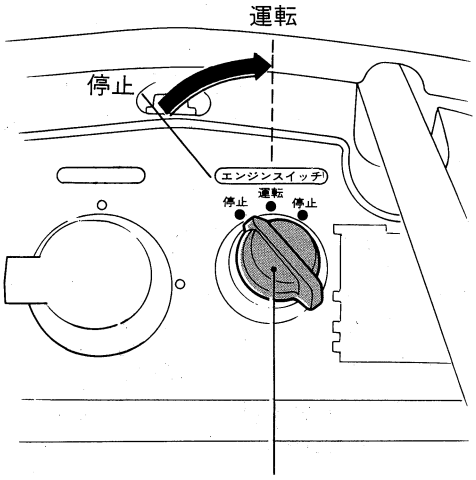


注意

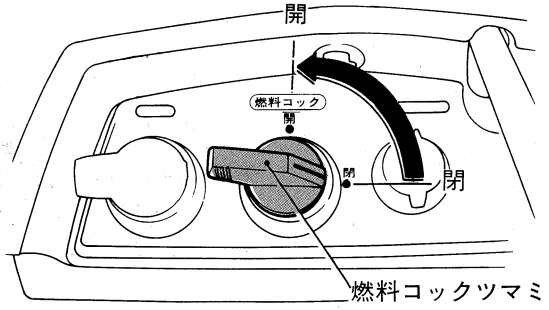
- キャップは、確実に締付けてください。
- 締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

エンジンのかけかた

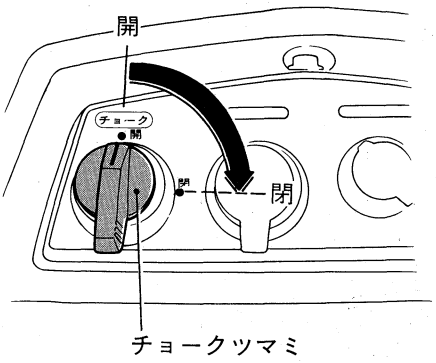
1.エンジン スイッチツマミを〝**運転**〟の位置に合わせます。



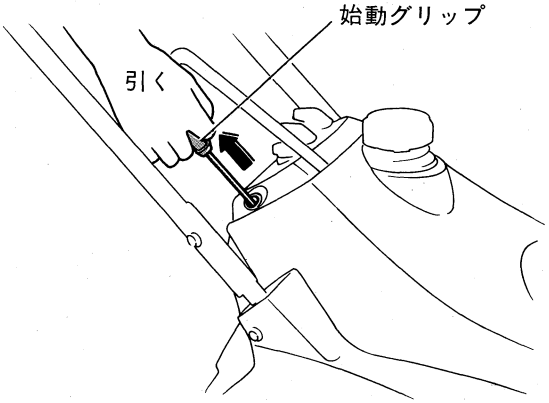
2.燃料コックツマミを〝**開**〟の位置に合わせます。



3.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョークツマミを〝**閉**〟の位置に合わせます。



4.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



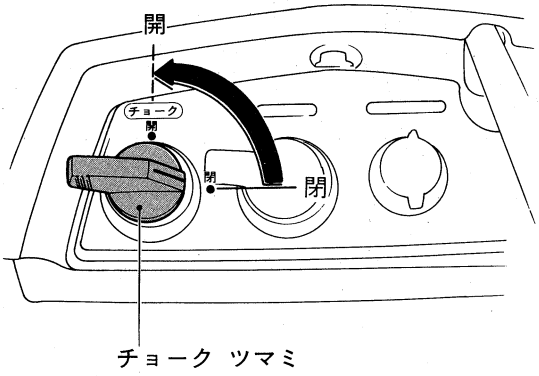
注意

- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

始　動

5．2 ～ 3 分間暖機運転を行ないます。

チョーク ツマミを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら除々〝**開**〟の位置に戻します。

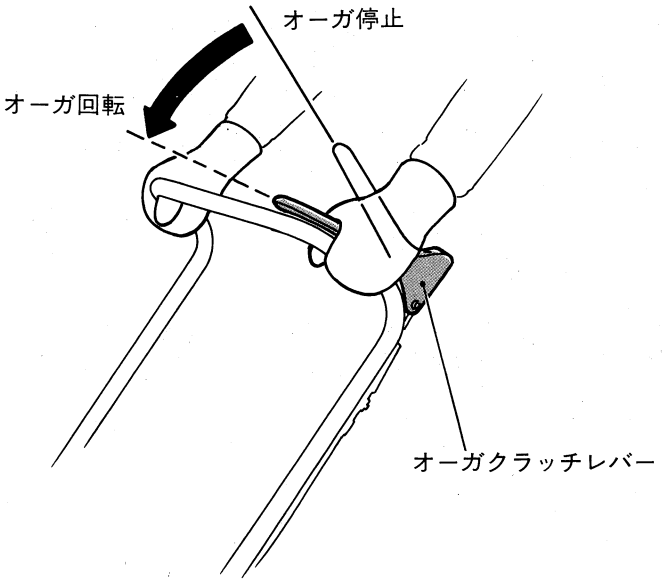


正しい除雪のしかた

除雪をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みになり除雪作業に取り掛かってください。

▼除雪は次の手順で行ないます。

1. 右手でしっかりとハンドルを握ってください。
2. 左手でオーガクラッチレバーを握ると除雪部が回転し自走します。レバーから手を放すと除雪部の回転が止まります。



3. 除雪部は接地している為回転すると自走力が生じ前進します。ハンドルを押し下げ機体前部を上げると前進は止まります。作業に合わせて上げ下げしてください。

注意

- この時にオーガクラッチレバーの機能が正常に働いていることを確認してください。異常のある場合はエンジンを停止しオーガクラッチワイヤの調整をしてください。（調整方法は28頁参照）
- 足元には十分注意してハンドルをしっかりと握り、けっして走らないでください。

4. レバーを握ったままエンジン回転が安定してから除雪してください。



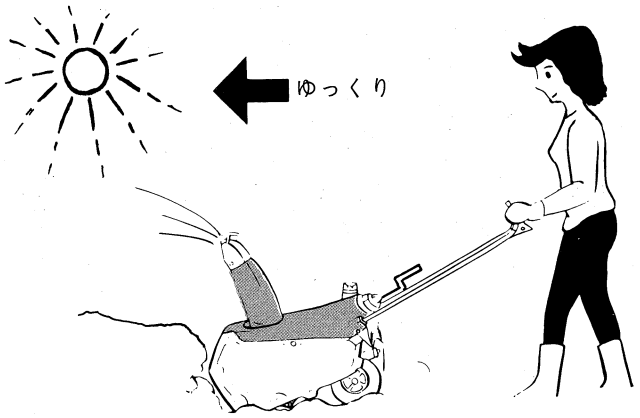
注意

- オーガクラッチレバーを握る前に投雪方向調節ハンドルを左右に回わし投雪方向を人や建物などに向けないでください。

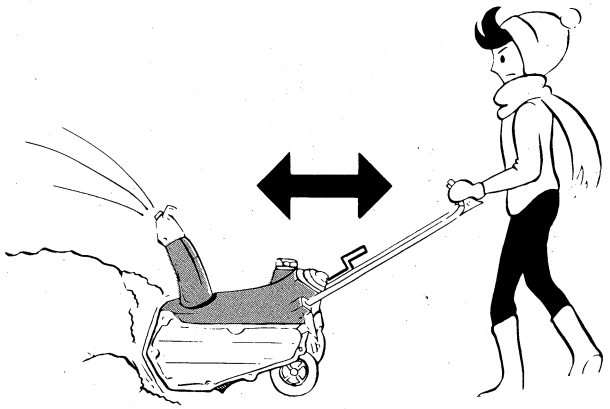
- 出来るだけ新雪の状態で除雪していただくと作業がし易く能率もあがります。固くなった雪や、とけて湿った雪は作業性が悪くなります。

- 地面に凹凸のある場所で除雪をする場合はハンドルを押し下げ除雪部を地面より浮かし作業してください。

5.深い雪や、固くなったりした雪の場合はゆっくり除雪してください。自走力が不足する場合は手で押し補助してください。またこのような場合、除雪幅を狭くして行なうのも良い方法です。

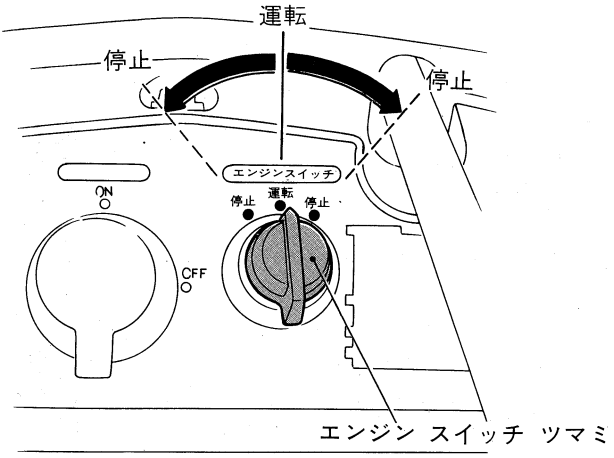


6.除雪しようとする雪の高さが除雪部分よりも高い場合は積雪部分を崩しながら（本機を押したり引いたりする）行なってください。

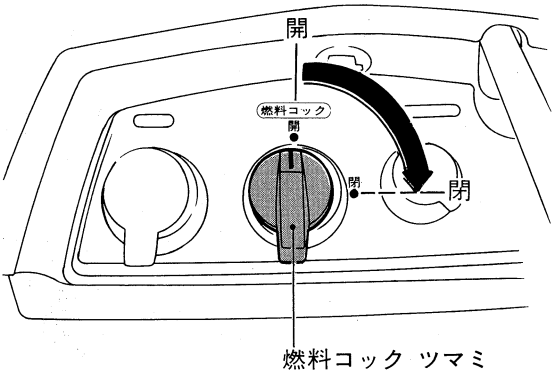


エンジンのとめかた

1.エンジン スイッチ ツマミを〝**停止**〟の位置に合わせます。



2.燃料コック ツマミを〝**閉**〟の位置に合わせます。

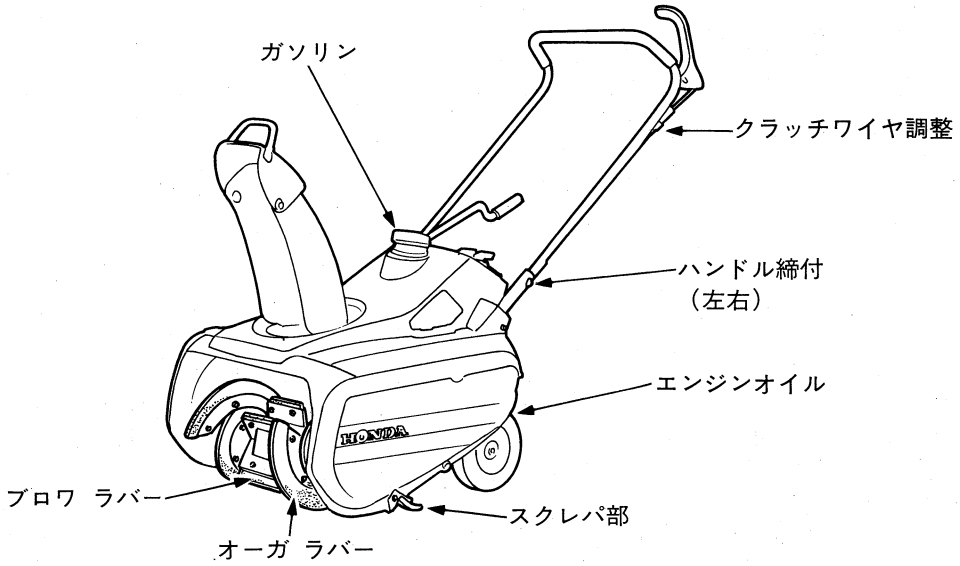


定期手入れを行ないましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行なってください。

- エンジンオイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- ガソリン……残量
- 異常個所……前日悪かった所
- 各部の締付け……ハンドルのがたはないか。
- 除雪機能…オーガ ラバー部、ブロワ ラバー部、スクレパ部に異常はないか。
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



初回点検：ご使用後1ケ月以内につぎの点検を必ず行なってください。

- オーガ ラバー ブロワ ラバーの締付確認
- 各部締付等

お買い上げ販売店でも申し受けます。

定期点検

定期点検は安全と性能を推持する為にぜひ必要なことです。指定された点検、整備は完全に実施してください。

点検項目 ＼ 点検時期	除雪時期（毎年）		5年毎点検
	始めの点検	終りの点検	
エンジンオイル　交換	○		
点火プラグ　清掃	○		
燃料ろ過器　交換			※○
吸入・排気弁間隙　調整			※○
気化器燃料　抜き		○	
燃料タンク　洗浄			※○
オーガクラッチワイヤ　点検	○		
調整			◎
オーガラバーブロワラバー　点検	○		
交換			◎
Vベルト　点検			※◎
交換			
スクレパおよびスクレパラバー　点検	○		
交換			◎
シュータセットワッシャ　交換			※◎
格納時の各部防錆塗油		○	
燃料チューブ　交換	3年毎		

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店または最寄りのホンダサービスの各地区センターへお申しつけください。

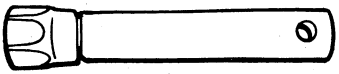
◎印のついた項目は消耗部品であり使用条件により交換時期がかわります。機能が正常でなくなった時、交換してください。

やさしい点検・整備

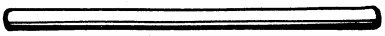
（★点検・整備は平担な場所で必ずエンジンを停止してください。）

携帯工具

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



プラグ レンチ



プラグ レンチ ハンドル

エンジン オイル交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

年一回初めの点検

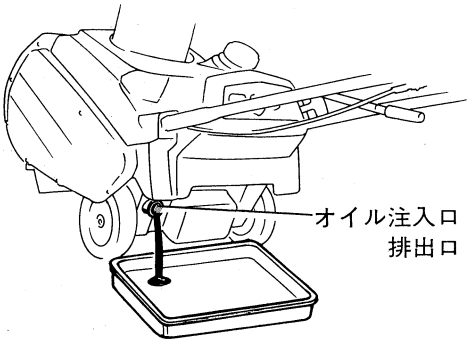
《指定オイル》

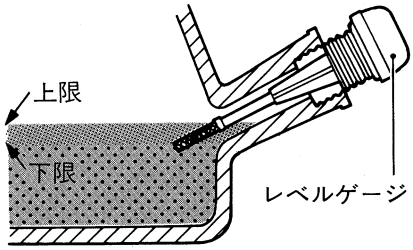
API 分類 SD級以上の SAE 5W－30 エンジンオイル。

《規定量》 0.7 ℓ

《交換のしかた》

1. オイル レベル ゲージを外して図のようにハンドルを押し下げて、本機を傾けて注入口よりオイルを抜きます。
2. エンジン オイルをレベル ゲージで確認しながら上限まで注入します。(レベル ゲージをねじ込まず差し込んで確認します。)
3. 注入後、オイルレベルゲージをゆるまないように確実に締付けます。
4. オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ないましょう。





注意

- エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。
- オイルを抜く時は燃料コックツマミを必ず〝閉〟にしてください。燃料コックツマミを〝閉〟にしないと気化器から燃料がもれることがあります。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

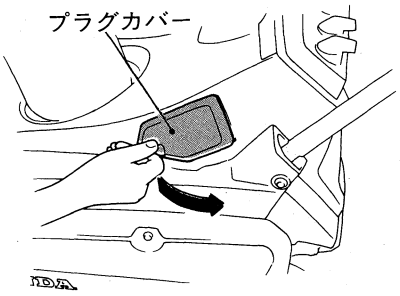
《清掃時期》

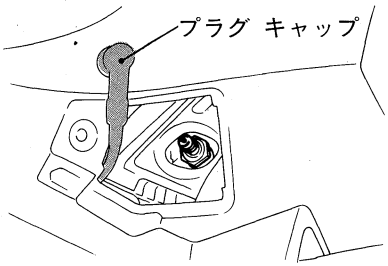
年一回初めの点検

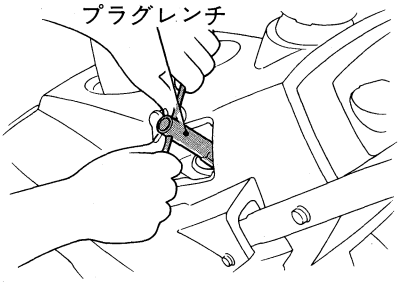
《清掃のしかた》

1. プラグカバー, プラグキャップを取外してください。
2. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
3. プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはホンダサービスの各地区センターをご利用ください。

• プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。

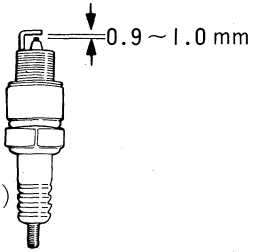






《調　整》

• 側方電極をつめ、火花すきまを0.9～1.0 mmに調整します。



《指定プラグ》

BPR 4 HS－10(NGK)
W14FPR-UL10(ND)

注意

• 指定以外のプラグを使用しないでください。
• エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
• プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
• 点検調整後はプラグキャップ及びプラグカバーを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

オーガ クラッチ ワイヤの調整

オーガ クラッチ ワイヤの調整が完全でないとベルトがすべり除雪部が正常に回転しません。

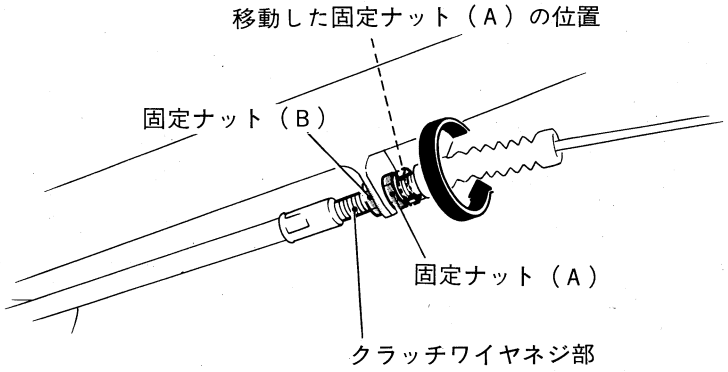
《調整時期》

年一回初めの点検

またはオーガ クラッチレバーを握っているにもかかわらず除雪中に雪の抵抗でオーガ部が回転しない時。

《調整のしかた》

1. クラッチ ワイヤネジ部の固定ナット（A）を現在の位置からネジ山で2～3山移動した所へ左に回わし移動させる。
2. 固定ナット（B）を移動させ固定させる。



注意

- クラッチワイヤ調整後エンジンを始動してオーガ部を浮かしオーガクラッチレバーをはなした時にオーガ部が停止することを確認してください。

オーガ ラバーの交換

オーガ ラバーが摩耗すると除雪能力が落ち、また自走しなくなります。

《交換時期》

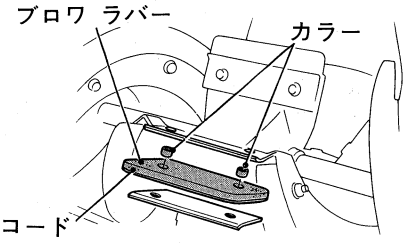
5年毎またはラバー部に著しい損傷が認められた時。

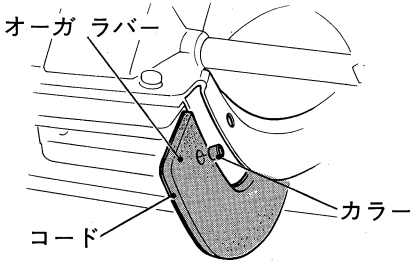
《点検方法》

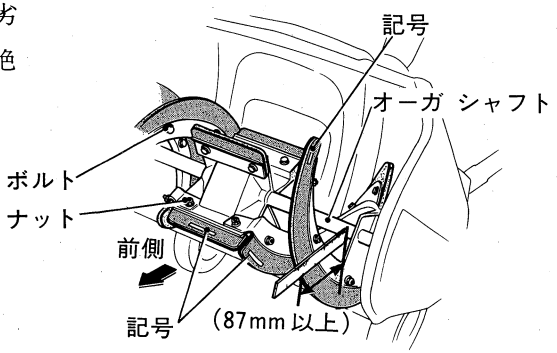
オーガ シャフトからラバー部先端までの数値が約87mm以下になったら交換してください。

《交換のしかた》

1. オーガ ラバー、ブロワ ラバー締付ボルト、ナットを取外してください。
2. 新しいオーガ ラバー、ブロワ ラバーにカラーを取付けてください。(図参照)
3. オーガ ラバー、ブロワ ラバーの記号の向きを図のようにして取付けてください。
   ラバーが取付にくい時は、石けん水等を塗って取付けてください。
   エンジン オイル等はラバーを劣化させる恐れがありますので絶対に使用しないでください。







4.錆たり、ネジ山のいたんでいるボルト、ナットは新しいものに交換してください。

5.ボルト、ナットの取付かたは記号側へナットがくるように取付けてください。

注意

- オーガ ラバー、フロワ ラバーを交換した時はスクレパの調整をしてください。
- ボルト、ナットの締付は運転中にゆるまないよう確実に締付けてください。運転中にゆるむと思いがけない事故を招くことがあります。
- オーガゴムの取付方向は記号が図の位置になるように取付けてください。反対に取付けると耐久性が著しく低下します。

スクレパの調整、交換

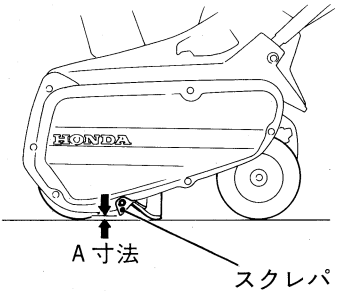
スクレパが変形したりすると除雪した後の仕上がりが悪くなったりします。

《交換時期》

5年毎点検または著しい変形摩耗があった時

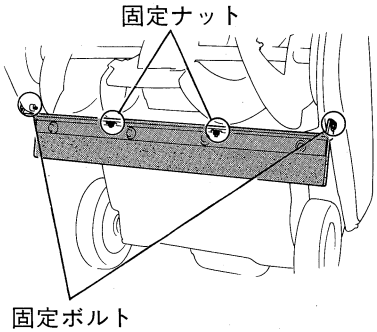
《点検方法》

- 本機を平らな所に置き(A)寸法が3～6mm以外である場合は調整または交換をしてください。



《調整、交換のしかた》

1. 締付ボルト、ナットをゆるめスクレパを動かして調整してください。
2. 交換する時は締付ボルトナットを外して行ないます。取付け後A寸法が3～6mmになるように調整を行なってください。

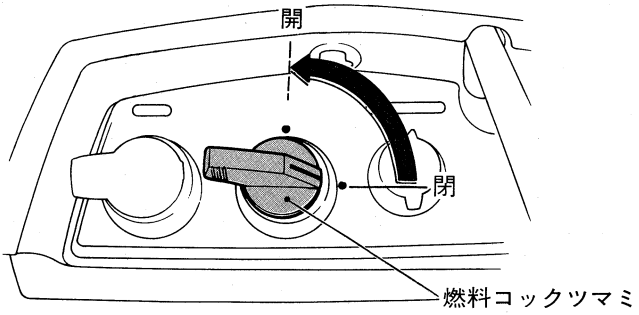


長期間使用しない時の手入れ

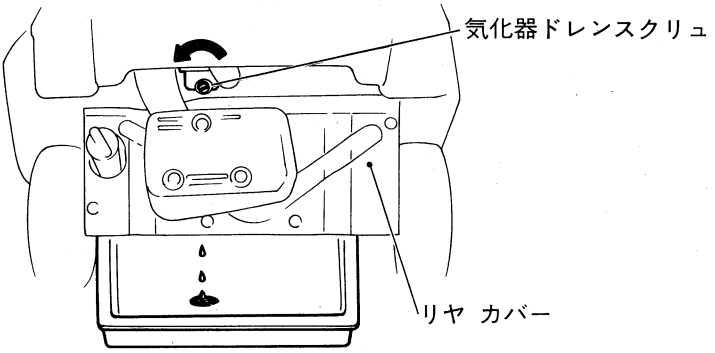
降雪シーズンも終わり長期保管する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1．燃料タンクおよび気化器内のガソリンを抜きとる。

1)．燃料コック ツマミを〝**開**〟にしてください。



2)．リヤカバーの図の位置へ容器を置き気化器ドレンスクリュを左に回わしガソリンを抜いてください。

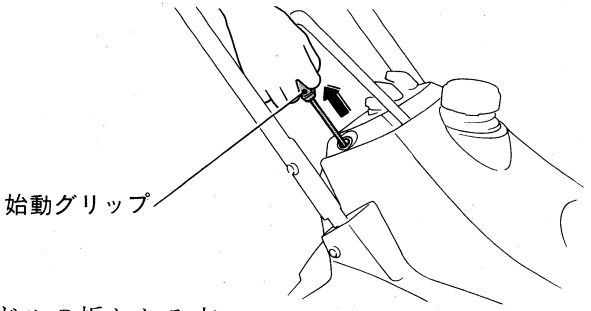


3)．完全にガソリンが抜けましたら燃料コック ツマミを〝**閉**〟の位置にしてください。

注意
- ガソリンを抜くときは火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行なってください。
- 抜いたガソリンこの後始末は十分に行なってください。

2.始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。

（吸排気の弁が閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる）



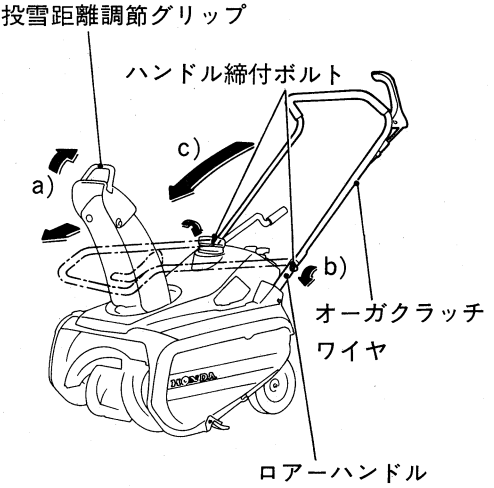
3.ハンドルの折たたみ方

ハンドルを折たたむことにより保管スペースが少なくてすみます。

a.).投雪方向を前方に向け、投雪距離調節グリップを上向にしてください。

b). ハンドル締付ボルトをゆるめてください。

c). オーガ クラッチワイヤがロアー ハンドルに引掛からないようアッパーハンドルを前方に折たたんでください。この時オーガ クラッチ ワイヤが折れ曲っていないか確認してください。

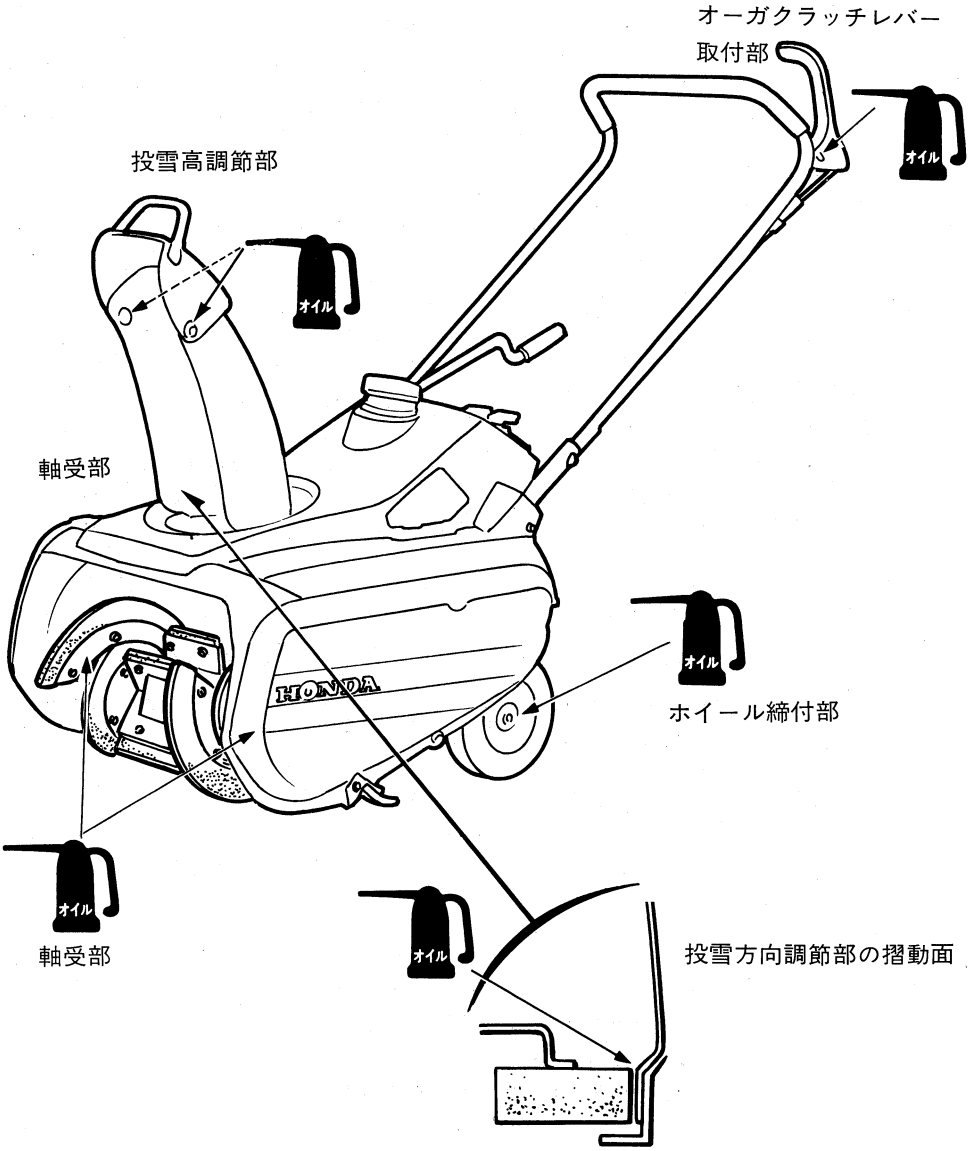


注意

- 本機の保管は必ず水平な状態で行ない立てたり、ハンドルをつるすことはぜったいにしないでください。
  立てたりすると燃料室内にオイルが入って後の始動不良を起す原因になります。

●保管時の給油箇所

作業を終わり次のシーズンまで保管する前に次の箇所にオイルを給油してください。



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買い上げ販売店で点検整備をしてもらうことが、スノーラを長持ちさせる秘けつです。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- 燃料コックツマミは〝**開**〟の位置になっていますか？
- オイルは規定量ありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

  プラグカバーを外し点火プラグを取外して、プラグキャップに取付け、プラグをエンジンにアースさせ（感電を避けるためにプラグキャップ以外には触れないでください。）エンジンスイッチツマミを〝**運転**〟にして、始動グリップを強く引きます。この時、プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。この点検をする前に、シリンダーやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはぼろきれで完全に拭きとってから行ってください。

注意　• この点検は風通しのよい場所で行ってください。

- 始動方法は、取扱説明通りですか？

～～～～～～～少し時間をおいて
もう一度確めましょう～～～～～～～

下記のような症状のときは次の点を確かめましょう。

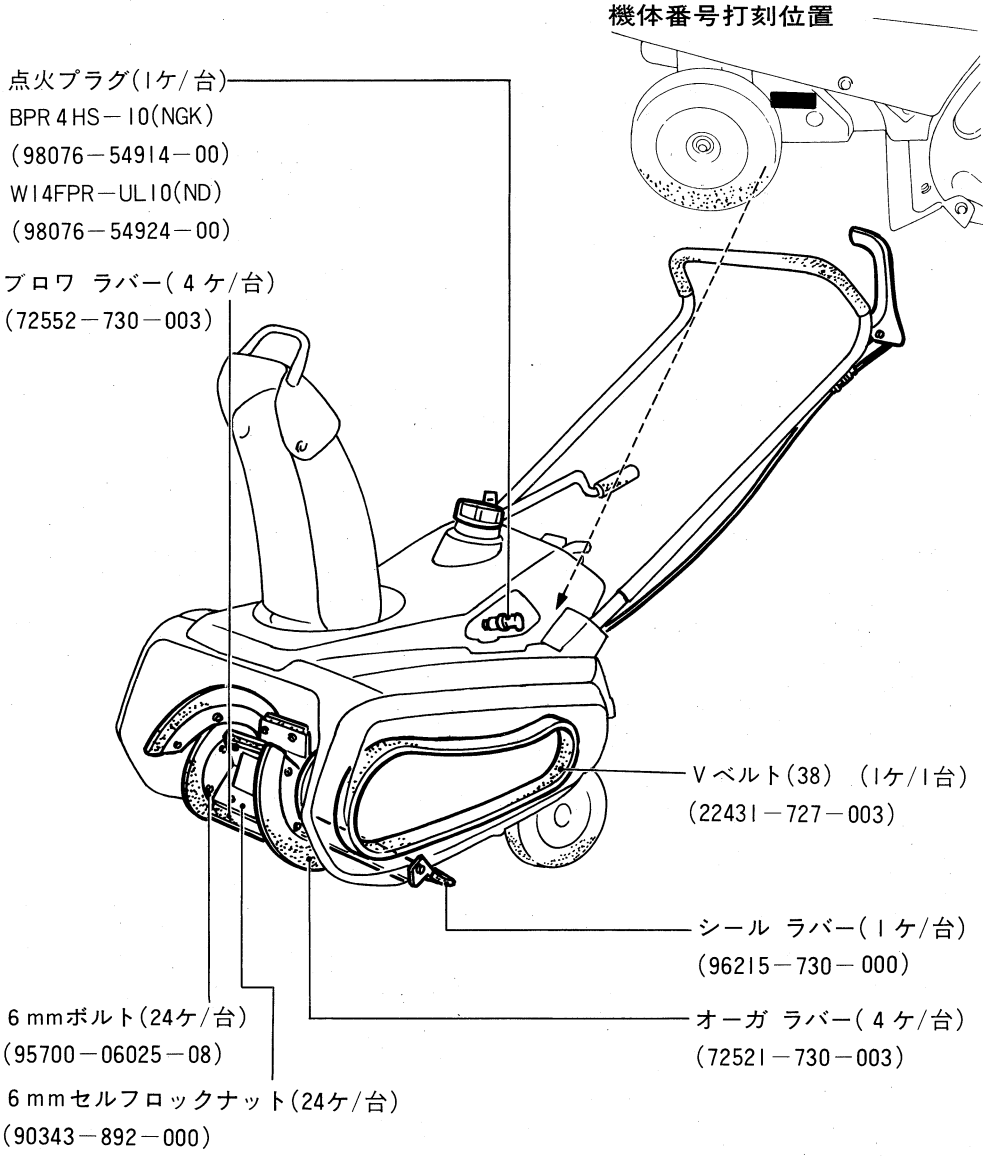
症　状	確認項目
• 投雪性能が極端に悪い • 一般的な雪で雪づまりが多発する • 作業中オーガが雪をかんで停止してもエンジンが停止しない。	オーガクラッチワイヤ調整
• 除雪後の仕上りが悪い	スクレパラバーのチェック（破損等） スクレパの調整
• 自走しないまたは押荷重が重い。	オーガラバー摩耗チェック スクレパの調整 積雪量が多い
• 投雪方向調節ハンドル重いまたは動かない。	投雪方向調節部分解清掃グリス塗布

故障の修理

お買いあげ販売店または最寄りのホンダサービスの各地区センターへお申しつけください。

部品注文のしかた

ホンダ スノーラHS 35の部品をご注文の時はお買い上げ販売店または最寄りのホンダサービスの各地区センターへ部品名、部番及び機体番号を連絡しお買いもとめください。



主 要 諸 元

名　　称……ホンダ スノーラHS35

エ ン ジ ン

型　　式……ホンダエンジンG150

最 高 出 力……3.5PS／2,000r.p.m(カム軸)

排　気　量……144cm^3

内径×行程……64×45mm

始 動 方 式……手動方式（リコイル式）

点 火 方 式……C.D.I方式

オイル容量……0.7ℓ

燃料タンク容量……1.3ℓ

点火プラグ……BPR4HS—10(NGK)
W14FPR-UL10(ND)

フ レ ー ム

全　　長……1,140mm

全　　幅……530mm

全　　高……1,030mm

乾 燥 重 量……45.0kg

除　雪　幅……500mm

除　雪　高……285mm

投 雪 距 離……6.5m（前方）
6.0m（側方）

•投雪距離は雪質により異なります。

メ　モ



HONDA

本田技研工業株式会社
東京都渋谷区神宮前6－27－8

30730010
00X30-730-0101

HSG Ⓝ 1008501